<シンポジウム (1)-5-2 > Corticobasal Syndrome

CBS と関連する遺伝子変異

土井 宏1) 田中 章景1)

要旨:CBS の病理学的診断は多彩であり,遺伝学的背景も多彩である. 病理学的には前頭側頭葉変性症(FTLD)である頻度がもっとも高く,他に Alzheimer 病, Creutzfeldt-Jakob 病, Parkinson 病 /Lewy 小体型認知症などが挙げられる. FTLD の原因として頻度の高い MAPT, GRN, C9orf72 変異や TARDBP, FUS, LRRK2, CSF1R 変異例では臨床的に CBS を呈する可能性があることが欧米を中心に知られている. しかし日本人の CBS 発症に関与する 遺伝子については、単一遺伝子異常、疾患感受性遺伝子ともにまったくわかっておらず、今後多施設間で症例を集積、解析していく必要がある.

(臨床神経 2013;53:1026-1028)

Key words: 大脳皮質基底核症候群, 大脳皮質基底核変性症, 遺伝学

はじめに

大脳皮質基底核症候群 (Corticobasal syndrome; CBS) (Fig. 1) の病理学的背景については饗場の総説 ¹⁾ に詳しくまとめられており、それによれば前頭側頭葉変性症(Frontotemporal lobar degeneration; FTLD)がもっとも多く、その内訳は封入体の構成要素別に FTLD-tau 68.3%(大脳皮質基底核変性症(Corticobasal degeneration; CBD)46.7%,進行性核上性麻痺(Progressive supranuclear palsy; PSP)16.1%,Pick 病 3.9%,

他 1.7%), FTLD-TDP 6.7%, FTLD-ni (no inclusions) 2.2%) となっている. その他 Alzheimer 病 (AD) 16.7%, Parkinson 病/Lewy 小体型認知症 (PD/DLB) 1.1%, Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD) 2.2%, FTLD + AD 2.8%と様々な背景を有している. CBS の病理学的背景が多彩であることは、遺伝学的背景も多彩であることも意味しているが、CBS または主たる原疾患である CBD を一疾患群として多数例で遺伝子異常をしらべた疫学的データやゲノムワイド関連解析(Genomewide association study; GWAS)の報告はない. そのため現状では CBS の原因となる個々の疾患において、単一遺伝子病

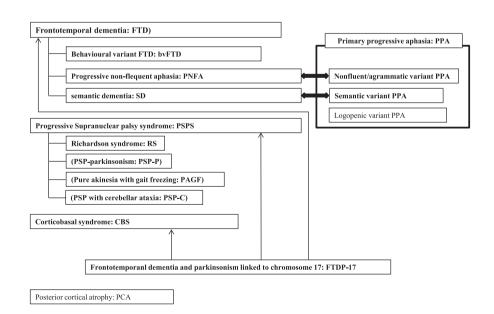


Fig. 1 Clinical syndromes associated with focal brain atrophy.

Clinical syndromes related to frontotemporal lobar degeneration pathology are written in bold letter.

¹⁾ 横浜市立大学学術院医学群神経内科学·脳卒中医学〔〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9〕 (受付日:2013年5月29日)

の原因となりうる遺伝子変異、および発症との関連が示唆される遺伝子多型についての断片的な情報が得られているにと どまる.

FTLD-tau をきたす遺伝子異常

FTLD-tau は病理学的に神経細胞,グリア細胞内に tau 蓄積がみとめられる疾患群で CBS の主原因である CBD,PSP がふくまれる 2). FTDP-17(Frontotemporal dementia and parkinsonism linked to chromosome 17)の原因として 1998 年に MAPT(タウ遺伝子)のミスセンス変異およびイントロン 10 のスプライスドナーサイトの変異が同定された. その後 MAPT 変異により PSP 症候群(PSPS)(Fig. 1)や CBS を呈することが報告されている.

FTLD-tau 発症と関連する多型としては H1 ハプロタイプが重要である. MAPT の遺伝子座は MAPT 全体を包括する二つのハプロタイプに分けられ, H2 ハプロタイプでは MAPT を包括する 900 kb が逆位になっている. H1 ハプロタイプは CBS あるいは CBD 患者においても有意に多く, リスクアレルであることが判明している. しかし日本人には低リスクアレルであるとが判明している. しかし日本人には低リスクアレルである H2 ハプロタイプが存在せず, 日本人においてH1 ハプロタイプのリスクを論じることはできない. FTLD-tau のカテゴリーでは PSP 患者を対象とした GWAS の報告があり, STX6, EIF2AK3, MOBP が新たな疾患感受性遺伝子として同定された. 他, MAPT のまれな多型 p.Ala152Thr が FTLD 関連疾患および AD 発症の相対リスクを上昇させることが示されている.

FTLD-TDP をきたす遺伝子異常

2006 年に tau 蓄積がなく MAPT 変異のない FTDP-17 家系から,プログラニュリン遺伝子(GRN)のヘテロ接合性変異が同定されている。CBS の臨床像を呈する例についても GRN 発見早期から報告されている。GRN をふくむ領域の欠失でも FTLD の原因となることが知られており,GRN はその機能喪失性変異が FTLD 発症の原因となると考えられる.

2011 年、C9orf72 のイントロンに存在する GGGGCC の 6

塩基のリピート伸長が欧米における家族性 FTLD/ALS, 孤発性 FTLD/ALS において、これまで発見された遺伝子変異の中でもっとも頻度が高い変異であることが示された。しかし日本における C9orf72 変異はまれであることが示されている 3 . C9orf72 変異も CBS の原因となりうるが、散発的な症例報告レベルである。

TARDBP 変異例のほとんどの症例が ALS で、CBS としての報告はわずかである。

孤発性 FTLD-TDP のリスクファクターとしては GRN の 3'-UTR の miR-659(マイクロ RNA)結合部位に存在する多型 (rs5848)や GWAS で同定された疾患感受性遺伝子 TMEM106B の多型が挙げられる.

FTLD-FUS, FTLD-UPS, その他

FUS 変異はほとんどの症例の表現型が ALS である. 近年 FUS 変異により CBS をきたすことが示唆された. その他の原因疾患としては PD、AD、CJD があるが、PD 原因遺伝子の中では CBS を呈した LRRK2 変異例の報告がある. スフェロイドをともなう遺伝性びまん性白質脳症でも、臨床診断が CBS である例が存在する.

CBS における遺伝子異常の頻度

前述のように大規模な調査はなされていない。 *GRN* 変異については比較的頻度がしらべられており,欧米の報告で CBS 30 例 (家族例 6, 孤発例 24) 中家族例 1 名に変異あり 4)、 CBS 13 例 (家族例 4, 孤発例 9) 中家族例 3 例に同一の変異あり 5), CBS/CBD51 例 (家族例 17, 孤発例 29, 不明 5) 中家族例 2 例,孤発例 1 例に変異あり 6)などの報告がある。その他,家族性 CBS5 例中 2 例に *MAPT* 変異 7 , CBS21 例 (家族例 7, 孤発例 14) 中 1 名に *C9orf72* 変異 8 , CBS70 例中 3 例に *FUS* 変異(または多型),1 例に *TARDBP* 変異をみとめた報告などがある 9)。日本においては CBS12 例(家族例 9 例,孤発例 3 例)をふくむ FTLD38 例の調査で *MAPT*, *GRN*, *C9orf72* 変異をしらべているが, CBS 例においてはこれらの 3 遺伝子変異は見つかっていない 10)上記研究は家族例が多

Table 1 Genes associated with CBS.

Pathology	Cause of monogenic diseases	Genetic polymorphisms/variants related to sporadic diseases
FTLD-tau	MAPT mutations	MAPT H1 haplotype, MAPT (p.Ala152Thr), STX6, EIF2AK3 and MOBP
FTLD-TDP	GRN, C9orf72, VCP, HNRNA2B1, HNRNPA1 and TARDBP mutaitons	GRN (rs5848), <i>TMEM106B</i>
FTLD-UPS	CHMP2B and UBQLN2 mutations	?
FTLD-FUS	FUS mutations	?
FTLD-ni	?	?
AD	APP, PSEN1 and PSEN2 mutations	APOE etc.
PD/DLB	LRRK2 mutations etc.	GBA etc.
CJD	PRPN mutations	PRPN
Others	CSF1R mutations	?

Genes which are reported to have relation to CBS, are written in bold letters.

く集められているのが特徴で、孤発例がほとんどである一般的な CBS 疾患コホートでは、これらの変異が見つかる可能性はさらに低くなることが予想される.

まとめ

欧米の孤発性 CBS については MAPT における H1 haplotype が、家族性 CBS については少数例において FTLD 原因遺伝子変異・多型が関与していることが判明している(Table 1). しかしながら、日本人の CBS 発症に関与するリスク遺伝子については、単一遺伝子異常、疾患感受性遺伝子ともにまったくわかっていない。今後統一した用語、診断基準により多施設間で症例、遺伝学的情報を集積して、日本人 CBS の遺伝的背景が明らかにしていくことが必要と考えられる。

※本論文に関連し、開示すべき COI 状態にある企業、組織、団体はいずれも有りません。

文 献

- 1) 饗場郁子. Corticobasal syndrome 最近の進歩と今後の課題. Brain Nerve 2012;64:462-473.
- Mackenzie IR, Neumann M, Bigio EH, et al. Nomenclature and nosology for neuropathologic subtypes of frontotemporal lobar

- degeneration: an update. Acta Neuropathol 2010;119:1-4.
- Ogaki K, Li Y, Atsuta N, et al. Analysis of C9orf72 repeat expansion in 563 Japanese patients with amyotrophic lateral sclerosis. Neurobiology of aging 2012;33:2527 e2511-2526.
- 4) Le Ber I, Camuzat A, Hannequin D, et al. Phenotype variability in progranulin mutation carriers: a clinical, neuropsychological, imaging and genetic study. Brain 2008;131:732-746.
- Benussi L, Ghidoni R, Pegoiani E, et al. Progranulin Leu271LeufsX10 is one of the most common FTLD and CBS associated mutations worldwide. Neurobiology of disease 2009;33:379-385.
- 6) Yu CE, Bird TD, Bekris LM, et al. The spectrum of mutations in progranulin: a collaborative study screening 545 cases of neurodegeneration. Arch Neurol 2010;67:161-170.
- Rohrer JD, Lashley T, Schott JM, et al. Clinical and neuroanatomical signatures of tissue pathology in frontotemporal lobar degeneration. Brain 2011;134:2565-2581.
- Lesage S, Le Ber I, Condroyer C, et al. C9orf72 repeat expansions are a rare genetic cause of parkinsonism. Brain 2013;136:385-391.
- Huey ED, Ferrari R, Moreno JH, et al. FUS and TDP43 genetic variability in FTD and CBS. Neurobiology of aging 2012; 33:1016 e1019-1017.
- 10) Ogaki K, Li Y, Takanashi M, et al. Analyses of the MAPT, PGRN, and C9orf72 mutations in Japanese patients with FTLD, PSP, and CBS. Parkinsonism Relat Disord 2013;19:15-20.

Abstract

The genetic background of corticobasal syndrome

Hiroshi Doi, M.D., Ph.D.¹⁾ and Fumiaki Tanaka, M.D., Ph.D.¹⁾

¹⁾Department of Clinical Neurology and Stroke Medicine, Yokohama City University, Graduate School of Medicine

Corticobasal syndrome (CBS) is associated with different pathologies including FTLD-tau (corticobasal degeneration; CBD, progressive supranuclear palsy, and Pick disease), FTLD-TDP, Alzheimer disease, Creutzfeldt-Jakob disease, and Parkinson disease/dementia with Lewy bodies. Genetic causes of CBS are also various reflecting diverse pathology. In familial and sporadic FTLD, *MAPT*, *GRN* and *C9ORF72* mutations are three major causes of the disease. A part of patients harboring these mutations could exhibit CBS. In addition, the patients with *TARDBP*, *FUS*, *LRRK2* or *CSF1R* mutations also have potential to exhibit CBS. In sporadic cases, H1 haplotype of *MAPT* is known to be associated with FTLD-tau, including CBS/CBD. Despite major advances in recent years, the majority of familial and sporadic CBS cases are genetically unsolved. In particular, little is known about both familial and sporadic cases of CBS in Japanese. Further studies are needed to unveil the genetic background of CBS.

(Clin Neurol 2013;53:1026-1028)

Key words: corticobasal syndrome, corticobasal degeneration, genetic